

環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	6	事例№	5	依頼者	（株）青山製作所	実施場所	南知多町千鳥ヶ浜海岸
実施対象	青山製作所の従業員とその家族（大人 16 名、子ども 23 名）（合計 39 名）						
実施日時	令和 5 年 9 月 10 日（日）9 時 45 分～10 時 45 分						
テーマ	環境に対する意識高揚（海岸漂着物等（海ごみ）対策について）						

●依頼内容

社内イベントで、内海海岸の清掃活動を行う。清掃活動前に、海ごみ問題について幅広く講義してもらえらる講師を紹介してほしい。

●講師：橋本寿朗氏（（一社）環境創造研究センター、EPO 中部 外部専門家）

橋本氏は、ごみや環境問題を専門とし、これまで環境コンサルタントとして環境調査や環境アセスメント、廃棄物関連施設などの環境調査を多く担当されている。廃棄プラスチック問題に関しても、市町村のごみ処理計画の策定に携わった経験があり豊富な知識を有している。伊勢湾においては、海岸漂着物調査（愛知県及び三重県の調査業務）を実施した経験がある。

●授業の内容

座学	活動の概要説明と講師の紹介	依頼者から、本日の流れと講義のテーマ、講師の紹介が行われた。また、当日は気温が高かったため、熱中症にならないように配慮しながら講座を進める旨の説明があった。	30 分
	廃棄プラスチック問題について	講師から、家庭から出されるごみ全体の量は近年横ばい傾向である事が説明された。このうち廃棄プラスチックについては、86%がリサイクルされているが、近年マイクロプラスチックの増加とそれに伴う環境への影響が年々問題となってきたことが紹介された。マイクロプラスチックは回収が難しく、長年にわたって海洋に蓄積し私たち人間を含め、生態系に大きな影響を与えることが示された。また、愛知・三重の海岸に漂着するごみの量が示され、海岸漂着ごみを減らし、廃棄プラスチックのリサイクルを進めるためにも、ごみの分別回収が重要であることが語られた。	
活動	海岸での清掃活動	依頼者から清掃活動の時間とエリア、及び可燃物と不燃物の分別について説明があった。清掃活動には講師も加わり、参加者みんなで海岸を歩きながらごみを拾った。	30 分

●授業の様子

参加者は、海岸の護岸に座って講義を聞いた。講師は、カラー写真や図表を A 3 サイズに拡大した資料を紙芝居のように見せながら、話をすすめた。子どもたちにも理解できるように、細かな数字ではなくグラフを使って説明していた。地元の愛知・三重両県の海岸漂着物の調査結果が示されると、参加者は興味深そうに話を聞いていた。清掃活動は、海岸の広い範囲を移動しながら行われ、講師も参加者と一緒にごみの回収を行った。イベント参加者以外の一般の方が、子どもたちが持っていたごみ袋にごみを拾って入れる光景も見られた。

海岸の護岸に座り、講師の話を聞いた。



海岸の広い範囲で、清掃活動を行った。

